

小袖をデザイン

～社会科の江戸の文化の学習を活かして～

- めあて
- ・着物の特長について知る。
 - ・美しい模様づくりを楽しむ。
- 準備物
- ・小袖のワークシート（教師）
 - ・絵の具、色鉛筆、サインペン、マジック、ノリなど（児童）



学習の流れ	実践上の留意点
<p>○江戸の文化の学習を想起し、伝承される日本の着物について調べる。</p> <p>○着物の裁断のしかたを紙で体験する。</p> <p>○自分の好きな色や形で模様をデザインする。</p> <p>○着物の形のにり付けしていく。</p> <p>○出来上がった小袖を並べて『着物博物館』の展覧会をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの社会の歴史学習を活かし、今に生きている着物の文化や特長（洗い張りして繰り返すことができる、たたむと平面、粋な柄を作る職人など）に興味を持たせる。 ・布をあまりなく有効に使っていることに気づかせる。 ・サインペンや色鉛筆、マジックなどでもよい。スタンプングで繰り返し模様をつくってもよい。 ・のり付けの順番を間違わないようにする。（着物の形だけをかいてデザインしてもよい。） ・浮世絵や歌舞伎などの文化の学習とも関連するとおもしろい。